

## 令和 4 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属中学校	校長名	水上 勝義
幼児・児童・生徒数（R5.3.1現在）	610	学級数	15
2 教育目標等			
① 学校教育目標	調和的な心身の発達と確かな知性の育成、ならびに豊かな個性の伸長を図るとともに、民主的社会の一員として人生を主体的に開拓し、進んでは、人類社会の進展に寄与することができる人間を育成する。		
② 学校経営方針	本校は教科教育の伝統を受け継ぎながら、筑波大学の附属学校としての先導的教育拠点、教師教育拠点、そして国際教育拠点という役割を果たすとともに、すべての教育研究は「教育課程研究に帰一集中する」という本校の伝統的な考え方にもとづきながら、教科教育はもとより、総合学習や学校行事、特別活動など教科外教育の研究・実践にも取り組むことで、学校目標の実現を目指す。教育研究においては、現代的な教育課題（教育のICT化等）に応えるべき研究課題を設定し、教育内容・方法の側面より研究を行う。感染症拡大防止になお一層の注意を払い、必要な対策を講じていく。		
③ 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 将来構想委員会を中心にしながら本校の将来構想を検討し、小中高との連携を進めていく。</li> <li>2. GIGA スクール構想の理念に沿った、ICT 機器を用いた授業実践を、積極的に開発し、発信していく。</li> <li>3. 本校の教育研究・教育実践を外部に発表していく。</li> <li>4. オリパラ教育について継続研究し、グローバル人材の育成に資するカリキュラムを開発する。</li> <li>5. 他大学・附属との連携を推進する。</li> <li>6. 働き方改革に向けて、トラブルの発生を未然に防ぐためのしくみを整える。</li> </ol>		
④ 前年度（令和 3 年度）の成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 将来構想についての意識の涵養に努めた。学校間の交流は、感染防止のため十分には行えなかった。</li> <li>2. 各教科における学習指導の実践研究を推進し、研究協議会・各教科の研究會・研究紀要で発信した。対面授業における ICT 活用を積極的に進め、その成果を蓄積・発信した。また 1 週間の自宅学習期間中は、オンライン授業を実施し、教員だけでなく受け手である生徒の技能を向上させることができた。校内ネットワークや教員用機器を整備し、情報セキュリティシステムを整えた。</li> <li>3. より先導的な教育実践を行うべくグローバル人材育成カリキュラムの研究を行った。HP の更新等を積極的に行うとともに、本校の教育実践の対面での広報活動を充実させた。6 月の免許状更新講習は中止となった。</li> <li>4. 大学や他附属と連携しながら、オリパラ教育の推進を図った。2020 オリンピックの実施によって、生徒・教員双方ともに良いインパクトを受けた。</li> <li>5. お茶の水女子大学附属学校の提携校進学は、小中の第 5 回目を、中高の第 4 回目を実施した。</li> <li>6. 保健室との情報共有や、教員間の連携を進めるため、健康管理アプリや情報共有アプリでの情報共有を進めた。</li> </ol>		

### 3 重点目標達成についての総括的評価

1. 本校の将来構想について検討する上で、小中高との連携を図りながら、それぞれの教育理念、教育方針、学校文化などの共通点や独自性などを確認したり、連携の可能性などを話し合ったが、具体的な案の作成までは至らなかった。
2. GIGA スクール構想の理念に沿った ICT 機器を用いた授業実践や指導法について、各教科で研究しながら、多くの実践が行われた。また、これに伴う環境整備を行った。一方、教育環境の変化や指導法の変化に伴う課題も見え始めてきた。
3. コロナ下において様々な制限がある中、教育研究・教育実践の発信は、各教科ごとに積極的に行えた。
4. オリパラ教育について、継続的に教育活動の中に位置づけられるよう工夫し、各学年において、講演などを行ったり、HR・道徳などに関連付けた計画や実践指導を行った。
5. 図書委員会では他大学の附属学校との交流会、情報交換会を行った。
6. 働き方改革については、学校全体として考えの共有や改善案等の研究は十分に行えなかった。

### 4 令和5年度の学校課題

1. 本校における短期的および長期的な課題を抽出・整理し、課題解決に向けての方策を検討する。
2. 本校の将来構想について検討・研究をすすめ、具体的なプランの策定に向けた話し合いを進めていく。
3. 働き方改革を念頭に、本校の教育活動の問題点の抽出や課題解決に向けた教育課程の見直しを含めた検討、研究を始めていく。
4. 地域連携や地域貢献、都道府県教育委員会等との連携のあり方を研究する。
5. 教育実習生が激減する中で、教師教育拠点校としてのあり方や改善に対する研究を行う。
6. ポストコロナでの教育活動、生徒指導、規則や規程などの見直しを行いながら、新しいこれからの時代にあった学習、教育指導法について研究を始めていく。

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

1. 教員研究会や講師による研修などを積極的に行い、本校の教育活動の自己点検・見直しに向けた話し合いを増やしていく。
2. 校内の将来構想委員会の活動や話し合いを活発に行い、全教員の共通理解を図る場を増やしていく。
3. 文京区民を対象とした地域貢献事業の可能性を研究し、イベントなどの計画を行う。
4. 教育実習生に対する指導のあり方を見直したり、他大学や卒業生による教育実習のあり方を探る。
5. 大学等における教科教育法などを受け持っている教員の指導法などの共有や研修会、授業研究会などを行いながら、自らの研究機会を増やしていくように努める。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

筑波大学附属中学校研究紀要 第75号  
教育課程研究（研究資料 57号）  
第50回研究協議会発表要項  
筑波大学附属中学校 教育課程研究所 所報72号  
中学校各教科教科書・指導書

# 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 4 年度

学校名

筑波大学附属中学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	各教科において、学習活動の工夫を行い、個に応じた指導法の研究を行っていた。ICT を活用して、個別・グループ指導の可能性が増し、生徒個人からの質問や補充などの対応ができるようになってきている。年に数度設定されている担任および教科面談も例年通り行った。
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	1人1台のコンピュータ端末の利用が、どの教科も毎時間のように行われている。授業ばかりでなく、学級・学年活動、生徒会活動などにも利用されていた。
1-2-5	体験活動、学校行事などの管理・実施体制の状況	教科や学年、生徒会指導などで組織をつくり、企画・計画について事前に確認を行ったり、生徒の委員会も組織し、それを指導する中で、多角的に点検チェックできるようにしている。実施に当たっては、十分な教員や補助員を当てるようにし、野外、校外において、情報交換や速やかな連絡ができるよう通信機器などを利用する体制を整えている。
2-1-1	学校の教職員全体として組織的に進路指導に取り組む体制の整備の状況	HR・進路委員会を組織し、各学年間の情報共有や前年度の引継ぎを行った。また、学年指導を原則にし、個々の担任によって指導の差が出ないようにしている。
3-1-6	児童生徒の出席率及び遅刻の状況	コロナ関連の欠席は減ってきている。保護者からの健康観察とともに欠席・遅刻等の連絡も継続しているため、情報共有も早く、保護者への連絡も素早い対応ができています。欠席者・遅刻者の多くは、体温や風邪症状によるもので、継続している者は少ない。
3-2-3	児童生徒の適性を発見し能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫の状況	授業や HR、生徒会活動など様々な場面で、一人一人の生徒が発表、連絡、指導などそれぞれが活躍する場面が数多く設定されている。生徒が希望選択したり、考え・意見を述べる場も設定している。
4-1-4	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断の実施の状況	保護者からの毎日の健康状況の報告を継続し、毎朝の担任による健康観察結果を保健室へ報告し、その結果を集約している。生徒による保健委員会を組織し、教員から保健委員への指導、保健委員からの指導のもと、日々の健康管理や疾病、事故・けが予防など、生徒の自己健康管理向上に貢献している。
11-1-99	保護者、地域住民等との連携	保護者へは、学年通信やホームページなどを活用し、定期的に情報を共有するようにしている。保護者会や授業参観の機会を増やし、生徒の学校での様子がわかるように工夫している。地域からの情報提供は以前から多くあり、必要に応じて、生徒・保護者へ報告・指導を行っている。